（第３種郵便物認可）

埼玉新聞　経済欄

中小企業診断士による
経営Q&A

農業ビジネスで地域活性化

Q ビジネスを通じて地域を活性化させたいのですが、何か良い切り口や着眼点はありますか？

A 地域の活性化や地方創生のポイントは、人口減少や地域産業の衰退などの地域課題の解決です。お住まいの地域、業種やお仕事の内容にもよりますが、その手立てとして農業とのコラボレーションを考えてみてはいかがでしょうか。

農業をおススメする理由はその特性にあります。食物を生み出す基礎的な産業であること、その土地の気候・風土、地域社会と深くつながっていること、さまざまな分野との親和性が高く、結合しやすいこと、そして何より「食べるおいしさ」「作る楽しさ」というシンプルな魅力です。このような特性を生かしたコラボの開発③ゆず豚としてブランド化して各地のスーパーで販売といった流れです。異業種連携によって生み出した特産品が、地域の知名度を向上させて産業振興につながります。このような仕掛けに積極的に関与していくことで地域の活性化に一役買うことができます。

次にご紹介するのは、農業とのコラボによる「関係人口」の創出です。関係人口とは移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域のファンやサポーターのことです。人口減少社会となり、居住や観光だけではない人と地域の多様なつながり方が今脚光を浴びています。関係人口を増やす上で、農業の持つ「おいしさ」「楽しさ」といった純粋な魅力は多くの人を惹きつけます。

最近の事例では、「農業×ワーケーション」＝「アグリワーケーション」が良い例です。ワーケーションとは、ワークとバケーションを組み合わせた造語で、休暇を兼ねて観光地やリゾート地に滞在し、勤務を織り交ぜる過ごし方のことです。日本においてもコロナ禍によるリモートワークの普及を機に広がりを見せています。これに農業体験や農家民泊などの農業要素を組み合わせることで、訪れたビジネスパーソンと地域のつながりが強くなり、新たな関係人口が創出されます。

このように、ご自身のビジネスに農業を絡めることで、地域外の人との関係性をつくり、多くの人を巻き込んで地域を活性化するビジネスへと生まれ変わらせることができるかもしれません。

中小企業診断士は、企業経営に関するコンサルタントですが、まちと人と仕事の成り立ちを大きく捉え、地域活性化の面からもアドバイスすることができます。農業経営に明るい診断士もおりますので、ぜひご相談ください。

（中小企業診断士・西舘和則）

◇

連絡先・一般社団法人埼玉県中小企業診断協会（☎０４８・７６２・３３５０）